

WindowsXPのIPv6設定

IPv6アドレスのインストール

- 「ネットワーク接続」のネットワーク接続(defaultではローカル エリア接続)のプロパティを開く。
- 「プロパティ画面」の「全般タブ」にて、「インストール」ボタンを押下する。
- 「ネットワークコンポーネントの種類を選択画面」にて、「プロトコル」を選択し「追加」ボタンを押下する。
- 「ネットワークプロトコルの選択画面」にて「Microsoft TCP/IP version 6」を選択し「OK」ボタンを押下する。
- 「プロパティ画面」の「この接続は次の項目を使用します」リスト内に「Microsoft TCP/IP version 6」が追加されチェックボックスがONになっていれば完了。

IPv6アドレスを設定する論理インターフェースのifindexを調べる。

- コマンドプロンプトにて「ipv6 if」を実行する。
- 実行結果に「loopback」「tunnel」等の論理インターフェース情報が表示される。
- 実行結果から設定したいインタフェースのifindexを見つける。

(例) 「ethernet」設定したい場合
実行結果の「Interface 4: Ethernet: ローカル エリア接続」行の「4」がifindexとなる。

IPv6アドレスの設定

- コマンドプロンプトにて「ipv6 adu [ifindex値]/[IPv6アドレス]」を実行する。
- 「ipv6 if」を実行し論理インターフェースに任意のIPv6アドレスが設定されていることを確認する。

(例) 「ethernet」に「2000:2000::172.16.1.160」を設定したい場合
「ipv6 adu 4/2000:2000::172.16.1.160」を実行する。
「ipv6 if」の実行結果に「preferred global 2000:2000::ac10:1a0, life infinite (manual)」が追加される。

GWの設定

- コマンドプロンプトにて「ipv6 rtu [プレフィックス] [ifindex値]/[GWアドレス]」を実行する。
- 「ipv6 rt」を実行し、実行結果に任意のGW設定が追加されていることを確認する。

(例) 「上位3bitが001のアドレス」を「2000:2000::172.16.1.130」へルーティングしたい場合
「ipv6 rtu 2000::/3 4/2000:2000::172.16.1.130」を実行する。
「ipv6 rt」の実行結果に「2000::/3 -> 4/2000:2000::ac10:182 pref 0 life infinite (manual)」が追加される。